

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

三重県 伊賀市

自治体名：三重県伊賀市

担当課名：教育委員会 学校教育課

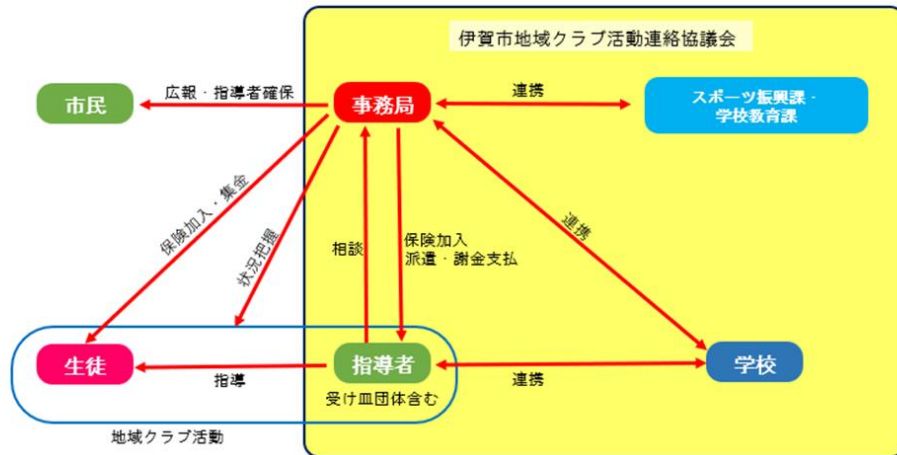
電話番号：0595-22-9649

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）

伊賀市地域クラブ活動連絡協議会について



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・当面の間、伊賀市地域クラブ活動連絡協議会の事務局を担う。

◎首長部局（スポーツ振興課）

- ・同上

年間の事業スケジュール

令和6年5月	伊賀市地域クラブ連絡協議会役員会 伊賀市地域クラブ連絡協議会総会
令和6年6月	部活動の地域移行にかかる 代表者会議
令和6年7月	部活動の地域移行にかかる チラシ配布
令和6年9月	部活動の地域移行にかかる 部活動顧問会議
令和6年10月	野球部を地域移行(休日)
令和6年11月	剣道部を地域移行(休日) 伊賀市地域クラブ活動連絡協議会 指導者講習会 新中学校1年生・保護者対象説明会
令和6年12月	小学校教員向け説明会
令和7年2月	新中1～3年生 意向調査

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	10校	実施した地域クラブ総数	4クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		4クラブ（5部活）
	B：部活動にはない種目など、新規のクラブ数		なし
全体の指導者数	12人	全体の運営スタッフ数	12人

②各クラブに関すること

中学校名	クラブ名	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
崇広中 城東中 島ヶ原中	崇広ベース ボールクラブ	軟式野球	休日 1回	午前もしくは 午後	1年4人 2年10人	R6.10～	3人	3人 (内、兼務0人)	なし	中体連：部 活動 その他：地 域クラブ
緑ヶ丘中 上野南中 青山中	緑ヶ丘ベース ボールクラブ	軟式野球	休日 1回	午前もしくは 午後	1年6人 2年4人	R6.10～	2人	3人 (内、兼務0人)	なし	中体連：部 活動 その他：地 域クラブ
大山田中 柘植中 霊峰中 阿山中	大山田ベース ボールクラブ	軟式野球	休日 1回	午前もしくは 午後	1年6人 2年4人	R6.10～	2人	3人 (内、兼務0人)	なし	中体連：部 活動 その他：地 域クラブ
市内全中学 校	伊賀剣道クラ ブ	剣道	休日 1回	午前もしくは 午後	1年14人 2年4人	R6.11～	5人	3人 (内、兼務0人)	なし	中体連：部 活動 その他：地 域クラブ

2.実証内容と成果

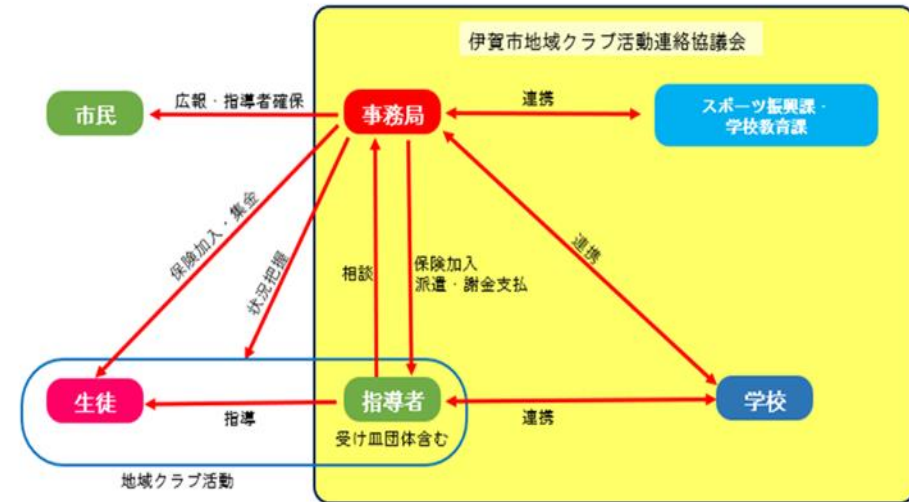
主な取組例

●伊賀市地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球、剣道
運営団体名	伊賀市地域クラブ活動連絡協議会
期間と日数	野球：10月1日～3月31日 月4回程度 剣道：11月1日～3月31日 月4回程度
指導者の主な属性	中学校教員、伊賀市地域クラブ活動委員登録者
活動場所	崇広中学校、緑ヶ丘中学校、大山田中学校、阿山中学校、青山中学校
主な移動手段	徒歩、自転車、送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	野球：0円 剣道：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）

伊賀市地域クラブ活動連絡協議会について



伊賀市における部活動の地域移行について



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

令和6年度5月に、「伊賀市地域クラブ活動連絡協議会」総会を開催する。
連絡協議会には事務局を置き、総会で承認を得た団体が業務を担うことになるが、当面の間は学校教育課とスポーツ振興課が事務局業務を担う。

組織は以下の団体及び地域クラブ活動指導者等。

- (1) 伊賀市スポーツ協会
- (2) 伊賀市スポーツ少年団
- (3) 伊賀市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
- (4) 伊賀市スポーツ指導者協議会
- (5) 伊賀市中学校長会
- (6) 伊賀市中学校体育連盟
- (7) 伊賀市企画振興部スポーツ振興課
- (8) 伊賀市教育委員会事務局学校教育課
- (9) その他、役員会で承認を得た団体

取組の成果

「伊賀市地域クラブ活動連絡協議会規約」・「伊賀市地域クラブ活動に関わる団体及び指導者の認定について」を定め、「伊賀市地域クラブ活動連絡協議会」を発足させた。各団体の役員の皆様からさまざまなご意見をいただき、取組を進めた。

今後の課題と対応方針

今後も、学校と地域の連携・協働による生徒の活動の場としての地域クラブ活動を整備していくことが急がれるため、事務局業務を担ってくれる団体を見つけることが必要である。また、文化部の地域展開も進めていく必要があるため、文化振興課にも協力を求めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

伊賀市地域クラブ活動に加入する団体及び個人には、認定申請書を伊賀市地域クラブ活動連絡協議会へ提出してもらい、役員会の議決を経て認定される。認定された団体及び個人には、認定証を交付することとしている。

今年度、部活動の地域移行「地域クラブ活動」を開始するにあたり、指導者登録した人を対象として、指導者としての基礎的な知識・技能の再確認・スキルアップのための講習会を開催した。

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 11月 11日
- ・開催回数： 1 回
- ・参加人数： 20人

受講者の声

- このような講習会は、定期的を受講することが大切だと考える。
- 地域のスポーツ団体の指導者向けの講習会も受講しているが、このような内容の講習会は何回受けてもそのたびに学びがあり、必要な機会だと思う。

今後の課題と対応方針

今後も、地域クラブ活動が安全で効果的な活動となることをねらいとし、指導者としての基礎的な知識・技能の再確認・スキルアップのための講習会を定期的で開催する予定である。中学生の心身の健康管理、事故防止の徹底、体罰・ハラスメントの根絶等に関する内容について、講義・グループディスカッションを行い、参加者の、より安全で効果的な指導への意識につなげたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○「伊賀市地域クラブ活動連絡協議会」を発足し、下記の組織の連携を図る。

当面の間は学校教育課とスポーツ振興課が事務局業務を担い、集金・支払い・連絡調整・状況把握・広報等の業務を行う。

組織は以下の団体及び地域クラブ活動指導者等。

- (1) 伊賀市スポーツ協会
- (2) 伊賀市スポーツ少年団
- (3) 伊賀市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
- (4) 伊賀市スポーツ指導者協議会
- (5) 伊賀市中学校長会
- (6) 伊賀市中学校体育連盟
- (7) 伊賀市企画振興部スポーツ振興課
- (8) 伊賀市教育委員会事務局学校教育課
- (9) その他、役員会で承認を得た団体

○学校と連携して進めていくため、小中学校校長会や部活動顧問会議等において、本市の取組及び今後の見通し等の説明を実施。

取組の成果

○「伊賀市地域クラブ活動連絡協議会」役員会において、各団体の方々から、地域クラブ指導者の量の確保だけでなく質の確保をどのようにしていくのかなど、地域展開を進めるにあたって各分野からさまざまな意見をいただき、今年度の地域展開を進めることができた。

○中学校校長会や部活動顧問会議等で、学校の意見や協力を求め、市内中学校の全ての生徒、小学6年生に事前周知や募集チラシの配布を行った。

今後の課題と対応方針

○今後も、競技団体や総合型地域スポーツクラブ、民間事業者等の多様な団体に参画してもらう必要があるため、更なる連携強化を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○ゆくゆくは、地域クラブ活動にかかる費用は受益者負担となるが、伊賀市は段階的に地域移行を進めていく予定であるため、地域クラブ活動と学校部活動で必要経費に差が生じることのないよう、地域移行が完了するまでは公費で賄う予定である。ただし、この間に保護者の理解を得る必要がある。会費の適切な設定、会費の徴収方法の検討や、保護者負担経費の調査（既存の部活動における活動経費との比較や調整・管理の在り方を含む。）・検討を進めていく必要がある。

また、地域スポーツクラブ活動の運営や指導者配置等に必要コストを検証するとともに、こうしたコストをどのように賄っていくかについて受益者負担等と公的資金との適切なバランスも含めて収支構造を検討する。受益者負担の水準については、国や県から示される金額も参考にしながら会費の設定を検討していく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度、「伊賀市地域クラブ活動連絡協議会」を発足させ、「伊賀市地域クラブ活動連絡協議会規約」・「伊賀市地域クラブ活動に関わる団体及び指導者の認定について」を定め、地域クラブ活動を本格実施するための整備をおこなった。また、生徒や保護者に周知するためのチラシを作成したり、説明会を行ったりした。

そして、10月からは3つの地域クラブ活動（野球）、11月からはさらに1つの地域クラブ活動（剣道）を開始した。この内、3つの野球クラブは、登録人数の偏りを防ぐため、市内中学校を3つのエリアにわけて参加者を募集した。剣道クラブは市内全域から参加可能とした。

また、登録指導者を対象として、指導者としての基礎的な知識・技能の再確認・スキルアップのための講習会を伊賀市地域クラブ連絡協議会が主催した。

●成果の評価

「伊賀市地域クラブ活動連絡協議会」において、各団体の方々からさまざまな意見をいただきながら、今年度の地域展開を進めることができた。

中学校校長会や部活動顧問会議等を何度も開催し、学校と連携をしながら、露見してきた課題を一つずつ解決していった。

また、市内中学校1～2年生の生徒、小学6年生にチラシの配付を行い、本市が進める地域展開について周知をおこなった。外国につながる生徒も多いため、「やさしい日本語バージョン」のチラシも作成し配付した。

4つの地域クラブが始まり、参加生徒からの、学校部活動にない競技に参加することができた喜びの声や、学校を越えた仲間との活動を楽しむ声が聞かれた。

●今後に向けて

大きな課題として、指導者の不足が挙げられる。各スポーツ関連団体や地域の企業等へ指導者募集の案内を出すなど、関係者への働きかけを検討していかなければならない。今後、さらに学校と地域の連携・協働による生徒の活動の場としての地域クラブ活動を整備していくことが急がれるため、事務局業務を担ってくれる団体を見つけることも必要である。

また、令和9年度からは新たな経済的負担が生じることや、校区外での活動等の際に送迎をしてもらうことなど、保護者の理解を得ることについても今後具体的に取り組んでいかなければならない。

参加者の声

●参加者の声

中学1年生

通う学校には野球部がないので、こうして野球をすることができてうれしい。
はじめは緊張したけれど、慣れてきたら楽しくなってきた。

中学2年生

A校とB校のそれぞれがしている練習と先生が教えてくれる練習など、たくさんのができておもしろい。

ベースボールクラブ指導者

学校では別の競技に取り組んでいる生徒がいるが、部活動と地域クラブ活動の両立ができるよう、本人の意思を尊重しながら活動している。

剣道クラブ指導者

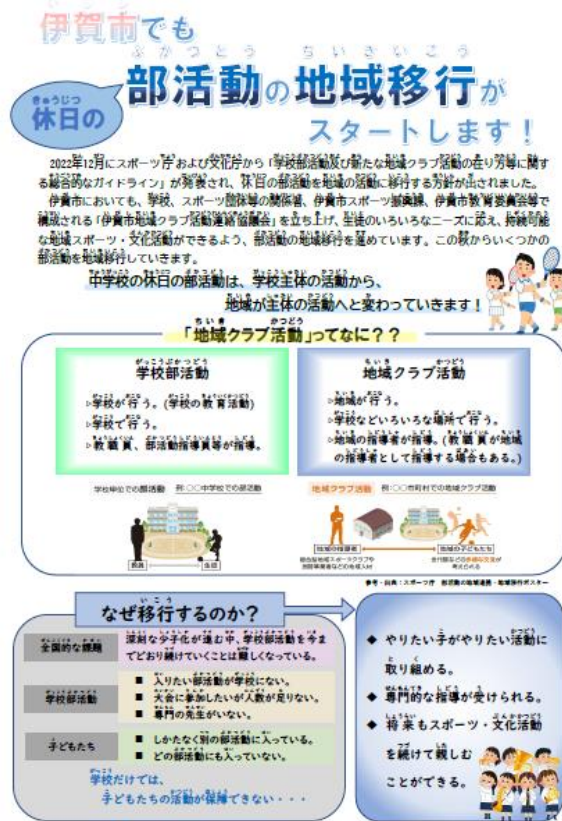
A校からの唯一の生徒がおり、最初はなかなかなじむことが難しかったが、月日が経つにつれ、仲間意識が芽生えてきたようでとてもがんばっている。

2.実証内容と成果③

広報資料

令和6年10月から地域展開を進めるにあたり、1学期の三者懇談会にて中学1～2年生の生徒と保護者に配付するためのチラシを作成した。

外国につながる生徒も多いため、「やさしい日本語バージョン」のチラシも作成した。



伊賀市でも部活動の地域移行がスタートします!

2022年12月にスポーツ庁および文化庁から「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が発布され、独自の部活動を地域の活動に移行する方針が出されました。伊賀市においても、学校、スポーツ指導者の関係者、伊賀市スポーツ振興課、伊賀市教育委員会等で構成される「伊賀市地域クラブ活動連絡協議会」を立ち上げ、生徒のいろいろなニーズに応え、持続可能な地域スポーツ・文化活動ができるよう、部活動の地域移行を進めています。この秋からいくつかの部活動を地域移行していきます。

中学校の休日の部活動は、学校主体の活動から、**地域が主体の活動へと変わっていきます!**

「地域クラブ活動」ってなに??

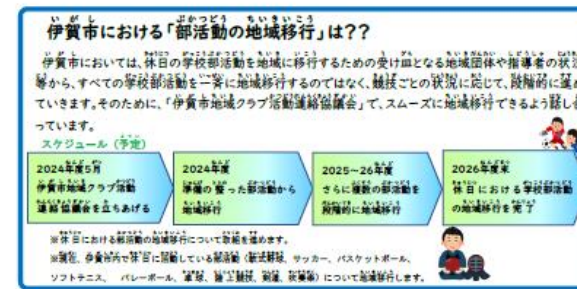
学校部活動	地域クラブ活動
<ul style="list-style-type: none"> 学校が行う。(学校の教育活動) 学校で行う。 教員、部活動指導員等が指導。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域が行う。 学校などいろいろな場所で行う。 地域の指導者が指導。(教員も地域の指導者として指導する場合もある。)

なぜ移行するのか?

全国的な課題	やりたい手がやりたい活動に取り組める。
<ul style="list-style-type: none"> 差別な少子化が進む中、学校部活動を学までとどろけていくことは難しくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門的な指導が受けられる。
学校部活動	将来もスポーツ・文化活動を続けて親しむことができる。
<ul style="list-style-type: none"> 入りたい部活動が学校にない。 大会に参加したい人数が足りない。 専門の先生がいない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校部活動は、新たな地域クラブ活動の在り方に移行する。
子どもたち	
<ul style="list-style-type: none"> しかたなく別の部活動に入っている。 どの部活動にも入っていない。 	

学校だけでは、子どもたちの活動が保護できない...

【生徒への参加啓発チラシ】表



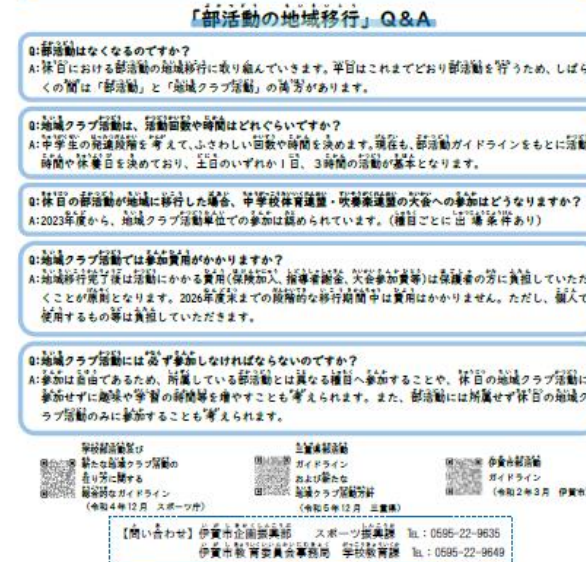
伊賀市における「部活動の地域移行」は??

伊賀市においては、休日の学校部活動を地域に移行するための受け皿となる地域団体や指導者の状況等から、すべての学校部活動を一律に地域移行するのではなく、競技ごとの状況に応じて、段階的に進めていきます。そのために、「伊賀市地域クラブ活動連絡協議会」を立ち上げ、スムーズに地域移行できるように取り組んでいます。

スケジュール(予定)

- 2024年度5月: 伊賀市地域クラブ活動連絡協議会を立ち上げる
- 2024年度: 準備の整った部活動から地域移行
- 2025～26年度: さらに複数の部活動を段階的に地域移行
- 2026年度末: 休日における学校部活動の地域移行を完了

※休日における部活動の地域移行については要約を掲載します。
※例年、伊賀市内で平日に開催している部活動(新体操、サッカー、バスケットボール、ソフトテニス、バレーボール、卓球、男子野球、剣道、新体操)について地域移行します。



「部活動の地域移行」Q&A

Q: 部活動はなくなるのですか?
A: 休日はこれまでの部活動の地域移行に取り組みしていきます。平日はこれまでどおり部活動を行うため、しばらくの間は「部活動」と「地域クラブ活動」の両方があります。

Q: 地域クラブ活動は、活動回数や時間はどれくらいですか?
A: 中学生の知識経験を考慮して、ふさわしい回数や時間を決めます。現在も、部活動ガイドラインをもとに活動時間や休日を決めており、土日のいずれか1日、3時間の活動が基本となります。

Q: 休日の部活動が地域に移行した場合、中学校体育連盟・吹奏楽連盟の大会への参加はどうなりますか?
A: 2023年度から、地域クラブ活動単位での参加は認められています。(種目ごとに届出要件あり)

Q: 地域クラブ活動では参加費用がかかりますか?
A: 地域移行完了後は活動にかかる費用(保険加入、指導者謝金、大会参加費等)は保護者の方に負担していただくことが原則となります。2026年度末までの段階的な移行期間中は費用はかかりません。ただし、個人で使用するもの等は負担していただきます。

Q: 地域クラブ活動には必ず参加しなければならないのですか?
A: 参加は自由であるため、所属している部活動とは異なる種目へ参加することや、休日の地域クラブ活動に参加せずに趣味や学習の時間を増やすことも考えられます。また、部活動には所属せず休日の地域クラブ活動のみに参加することも考えられます。

QRコード: 伊賀市地域クラブ活動の在り方に移行する、伊賀市地域クラブ活動連絡協議会

【問い合わせ】伊賀市企画振興部 スポーツ振興課 Ⅱ: 0595-22-9635
伊賀市教育委員会事務局 学校教育部 Ⅱ: 0595-22-9649

【生徒への参加啓発チラシ】裏

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）

地域クラブ活動
活動風景



指導者講習会



地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型スポーツクラブ、スポーツ指導者協議会、中学校体育連盟、伊賀市企画振興部スポーツ振興課、伊賀市教育委員会、伊賀市スポーツ協会 等

経過

令和5年度より伊賀市地域クラブ活動連絡協議会を設置し、新たな地域クラブ体制を令和8年度末までに構築する推進計画及び地域クラブの活動指針を策定した。令和6年度は「伊賀市地域クラブ活動連絡協議会 設立総会」を行い、協議会規約や指導者認定要件等の承認を得た。

実施内容

10月からは3つの地域クラブ活動（野球）、11月からはさらに1つの地域クラブ活動（剣道）を開始した。この内、3つの野球クラブは、登録人数の偏りを防ぐため、市内中学校を3つのエリアにわけて参加者を募集した。剣道クラブは市内全域から参加可能とした。

実施にあたって生じた課題

今年度、地域展開が実現した野球と剣道においては、指導者が十分にいたことでスムーズに進めることができた。しかし、種目によっては指導者の不足が大きな課題として指摘されている。スポーツ少年団や地域の企業等へ指導者募集の案内を出すなど、関係者への働きかけを検討していかなければならない。

今後の展開

令和7年4月からは、陸上競技の地域展開を予定しており、3つの拠点での活動を進める。また、来年度中学校へ入学する新1年生が3年生になる令和9年度からは会費負担を開始する予定である。保護者の理解を得るために、パンフレットを作成したり、説明会を設けたりして、会費負担の必要性について伝えていかなければならない。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

三重県 菰野町

自治体名：三重県菰野町

担当課名：教育課

電話番号：059-325-6143

1.自治体の基本情報

基本情報

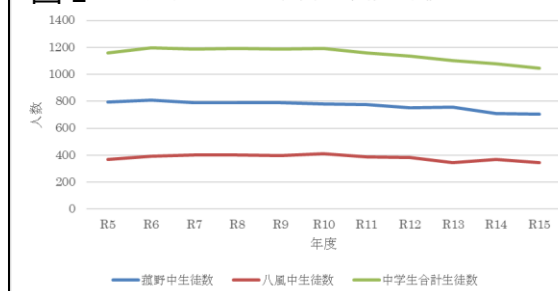
面積	108.28 km ² 隣接する市との間で境が確定していないところがあります
人口	40,710人 (R7.2月末)
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	1,203人 (R6.5.1)
部活動数	21部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、当町の中学校生徒数は、平成20年度の1,249人から令和5年度は1,160人となり（減少率7.1%）、少子化が進んでいる。さらに令和15年度の生徒数（見込み）は1,046人となることが推測されており（平成20年度比較16.2%の減少率）、今後も減少していくものと考えられる。（図1）

少子化は部活動の加入数にも影響しており、団体競技においては学校単位でチームが組めず、合同チームで大会に参加せざるを得ない競技が増加している。また、近年では学校外のスポーツクラブ・団体等に所属する子どもが増加しているなど、子どもたちを取り巻く環境の変化やニーズの多様化が見られ、今後、学校単位では部活動を継続していくことが難しい状況となっている。

図1 菰野町における中学校生徒数の推移



そのため、令和5～7年度の国の「改革推進期間」に合わせ、両中学校の休日に活動を行う部活動と同種目の「地域クラブ活動」を設置し、地域移行のスタイルを確立させ、令和8年度中の「休日の完全地域移行」を目指す。

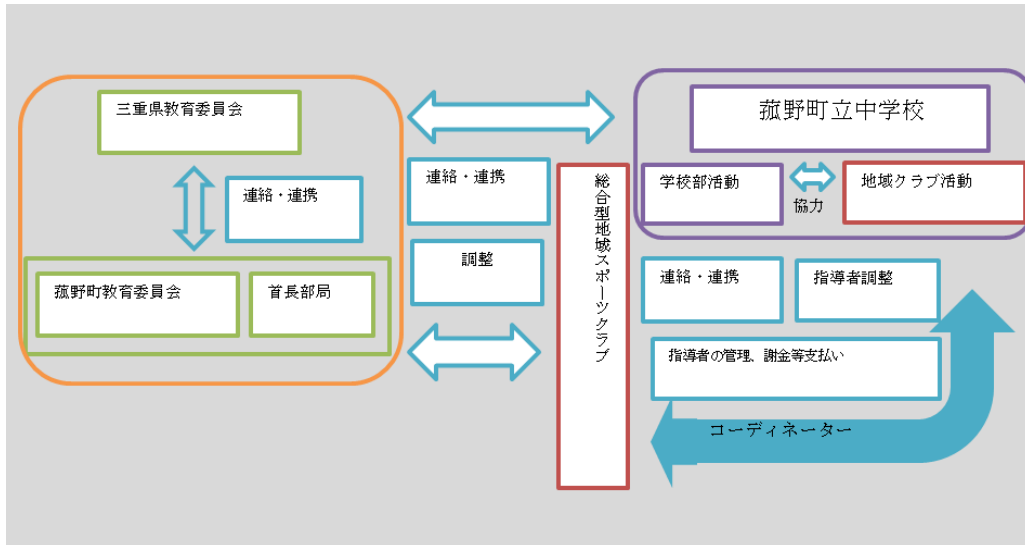
令和3年度から一部、先行的に地域クラブ活動を実施し、特定非営利活動法人「元気アップこものスポーツクラブ」を大きな受け皿団体として、令和5年度にはすべての部活動の種目をカバーする地域クラブ活動を設置することができた。また、同時に菰野町部活動地域移行推進協議会を立ち上げ、地域移行の方向性や課題の洗い出し、生徒や保護者、地域への周知も行ってきた。一方、取組を進める中で、地域の指導者と生徒との人間関係形成面での課題などの課題が現在もなお見られる。令和8年度中の「休日の完全移行」に向けて、今後も継続して、課題を洗い出し、菰野町部活動地域移行推進協議会で共有、改善に向けた取組を行っていく必要がある。

出典：『令和5年度及び令和6年度以降10年間の児童生徒数』

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校部活動の在り方検討
- ・県教委及び学校との連絡、連携、調整

◎首長部局

- ・地域クラブ活動の在り方検討
- ・総合型地域スポーツクラブとの連絡、連携、調整

年間の事業スケジュール

令和6年4月	第1回 菰野町部活動地域移行推進協議会の開催
令和6年4月	令和6年度の事業説明用のリーフレットを保護者へ配付
令和6年5月	地域クラブ活動を開始
令和6年6月	第2回 菰野町部活動地域移行推進協議会の開催
令和6年7月	地域クラブ活動に関するアンケート実施
令和6年8月	第3回 菰野町部活動地域移行推進協議会の開催
令和6年9月	クラブ指導者研修会の実施
令和6年10月	第4回 菰野町部活動地域移行推進協議会の開催
令和6年11月	第5回 菰野町部活動地域移行推進協議会の開催
令和6年12月	第6回 菰野町部活動地域移行推進協議会の開催
令和6年12月	クラブ指導者研修会の実施
令和7年1月	令和8年度からの休日の地域移行について周知
令和7年1月	第7回 菰野町部活動地域移行推進協議会の開催
令和7年2月	第8回 菰野町部活動地域移行推進協議会の開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	19クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		19クラブ（19部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	56人	全体の運営スタッフ数	2人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
元気アップ 菰野野球 (菰野中)	総合型 地域ス ポーツク ラブ	軟式野球	月 5回	午前また は午後	1年10名 2年 8名 3年 3名	令和6年 5月～令 和7年2 月	菰野中学 校グラウ ンド	3人	2人 (内、兼務×2 人)	月会費 0円 / 年会費 0円	中体連：部 活動 その他：部活 動
元気アップ 菰野ソフト ボール(菰 野中)	総合型 地域ス ポーツク ラブ	ソフトボール	月 6回	午前また は午後	1年 3名 2年 5名 3年 7名	令和6年 5月～令 和7年2 月	菰野中学 校グラウ ンド	3人	2人 (内、兼務×2 人)	月会費 0円 / 年会費 0円	中体連：部 活動 その他：部活 動
元気アップ 菰野サッカー (菰野中/ 八風中)	総合型 地域ス ポーツク ラブ	サッカー	月 7回	午前また は午後	1年 5名 2年12名 3年10名	令和6年 5月～令 和7年2 月	大羽根 サッカー場	6人	2人 (内、兼務×2 人)	月会費 0円 / 年会費 0円	中体連：地 域クラブ その他：地域 クラブ
元気アップ 菰野陸上 (菰野中)	総合型 地域ス ポーツク ラブ	陸上	月 5回	午前また は午後	1年23名 2年28名 3年18名	令和6年 5月～令 和7年2 月	菰野西競 技場	9人	2人 (内、兼務×2 人)	月会費 0円 / 年会費 0円	中体連：部 活動 その他：部活 動

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	19クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		19クラブ（19部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	56人	全体の運営スタッフ数	2人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
元気アップ菰野卓球（菰野中）	総合型地域スポーツクラブ	卓球	月4回	午前または午後	1年 1名 2年20名 3年22名	令和6年5月～令和7年2月	菰野中学校体育館	3人	2人 (内、兼務×2人)	月会費 0円 / 年会費 0円	中体連：部活動 その他：部活動
元気アップ菰野バレーボール男子（菰野中）	総合型地域スポーツクラブ	バレーボール	月5回	午前または午後	1年16名 2年11名 3年 8名	令和6年5月～令和7年2月	菰野中学校体育館	2人	2人 (内、兼務×2人)	月会費 0円 / 年会費 0円	中体連：部活動 その他：部活動
元気アップ菰野バレーボール女子（菰野中）	総合型地域スポーツクラブ	バレーボール	月4回	午前または午後	1年 6名 2年13名 3年12名	令和6年5月～令和7年2月	菰野中学校体育館	3人	2人 (内、兼務×2人)	月会費 0円 / 年会費 0円	中体連：部活動 その他：部活動
元気アップ菰野バスケットボール男子（菰野中）	総合型地域スポーツクラブ	バスケットボール	月2回	午前または午後	1年13名 2年 6名 3年 3名	令和6年5月～令和7年2月	菰野中学校体育館	1人	2人 (内、兼務×2人)	月会費 0円 / 年会費 0円	中体連：部活動 その他：部活動

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	19クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		19クラブ（19部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	56人	全体の運営スタッフ数	2人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
元気アップ 菺野バスケットボール女子（菺野中）	総合型 地域スポーツクラブ	バスケットボール	月3回	午前または午後	1年12名 2年 8名 3年 7名	令和6年 5月～令和7年2月	菺野中学校 校体育館	1人	2人 (内、兼務×2人)	月会費 0円 ／ 年会費 0円	中体連：部活動 その他：部活動
元気アップ 菺野ハンドボール（菺野中）	総合型 地域スポーツクラブ	ハンドボール	月5回	午前または午後	1年 9名 2年11名 3年15名	令和6年 5月～令和7年2月	菺野中学校 校体育館	2人	2人 (内、兼務×2人)	月会費 0円 ／ 年会費 0円	中体連：部活動 その他：部活動
元気アップ 菺野テニス（菺野中）	総合型 地域スポーツクラブ	テニス	月2回	午前または午後	1年21名 2年21名 3年23名	令和6年 5月～令和7年2月	菺野中学校 校テニスコート	6人	2人 (内、兼務×2人)	月会費 0円 ／ 年会費 0円	中体連：部活動 その他：部活動
元気アップ 菺野ソフトテニス（菺野中）	総合型 地域スポーツクラブ	ソフトテニス	月3回	午前または午後	1年11名 2年 9名 3年12名	令和6年 5月～令和7年2月	菺野中学校 校テニスコート	2人	2人 (内、兼務×2人)	月会費 0円 ／ 年会費 0円	中体連：部活動 その他：部活動

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	19クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		19クラブ（19部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	56人	全体の運営スタッフ数	2人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
元気アップ 菰野剣道 (菰野中)	総合型 地域ス ポーツク ラブ	剣道	月3回	午前また は午後	1年 5名 2年 7名 3年 4名	令和6年 5月～令 和7年2 月	菰野中学 校武道場	2人	2人 (内、兼務×2 人)	月会費 0円 / 年会費 0円	中体連：部 活動 その他：部活 動
元気アップ 菰野柔道 (菰野中)	総合型 地域ス ポーツク ラブ	柔道	月3回	午前また は午後	1年 7名 2年10名 3年 8名	令和6年 5月～令 和7年2 月	菰野中学 校武道場	5人	2人 (内、兼務×2 人)	月会費 0円 / 年会費 0円	中体連：部 活動 その他：部活 動
元気アップ 菰野陸上 (八風中)	総合型 地域ス ポーツク ラブ	陸上	月5回	午前また は午後	1年 9名 2年16名 3年15名	令和6年 5月～令 和7年2 月	菰野西競 技場	9人	2人 (内、兼務×2 人)	月会費 0円 / 年会費 0円	中体連：部 活動 その他：部活 動
元気アップ 菰野卓球 (八風中)	総合型 地域ス ポーツク ラブ	卓球	月4回	午前また は午後	1年16名 2年22名 3年 5名	令和6年 5月～令 和7年2 月	八風中学 校武道場	2人	2人 (内、兼務×2 人)	月会費 0円 / 年会費 0円	中体連：部 活動 その他：部活 動

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	19クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		19クラブ（19部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	56人	全体の運営スタッフ数	2人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
元気アップ 菰野バレー ボール女子 八風中)	総合型 地域ス ポーツクラ ブ	バレーボール	月1回	午前また は午後	1年15名 2年10名 3年 9名	令和6年 5月～令 和7年2 月	八風中学 校体育館	2人	2人 （内、兼務×2 人）	月会費 0円 / 年会費 0円	中体連：部 活動 その他：部活 動
元気アップ 菰バスケット ボール男子 （八風 中）	総合型 地域ス ポーツクラ ブ	バスケットボー ル	4回	午前また は午後	1年11名 2年 8名	令和6年 5月～令 和7年2 月	八風中学 校体育館	2人	2人 （内、兼務×2 人）	月会費 0円 / 年会費 0円	中体連：部 活動 その他：部活 動
元気アップ 菰野ソフト テニス（八 風中）	総合型 地域ス ポーツクラ ブ	ソフトテニス	月2回	午前また は午後	1年23名 2年12名 3年15名	令和6年 5月～令 和7年2 月	八風中学 校テニス コート	2人	2人 （内、兼務×2 人）	月会費 0円 / 年会費 0円	中体連：部 活動 その他：部活 動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 軟式野球体験会（令和7年2月1日）参加6名
- ソフトボール体験会（令和7年2月22日）参加4名

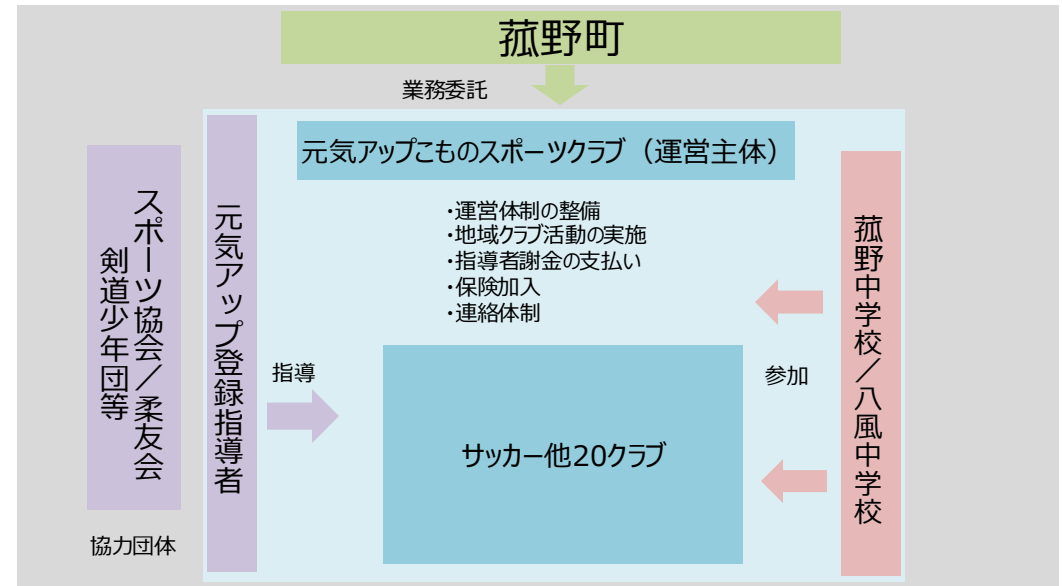
2.実証内容と成果

主な取組例

●元気アップ菰野サッカークラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	元気アップこものスポーツクラブ
期間と日数	サッカー：5月1日～2月28日 月7回程度
指導者の主な属性	兼職兼業教員2名 競技経験者4名
活動場所	菰野中学校グラウンド 大羽根サッカー場
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：0円 ※大会参加費等は別途徴収
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 代表者 1名
役割：協会登録、指導スタッフの活動調整、各会議出席、活動計画書作成
- 指導者 5名
役割：生徒の出欠確認、指導運営行う
- 運営補助者 2名
保険加入、謝金支払い

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

休日の地域クラブ活動では総合型地域スポーツクラブの「元気アップこものスポーツクラブ」を事務局として、事務局内にコーディネーターを配置する。コーディネーターを通じて、菰野町教育委員会、首長部局、学校との連絡調整が円滑に行われる体制を整備する。さらに、事務局を通じて事業費の運用や調整、地域クラブ活動の参加者管理、地域クラブ活動参加者及び地域クラブ活動指導者の連絡調整等を行う体制を整備していく。

取組の成果

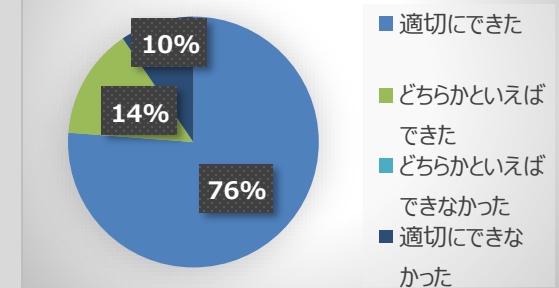
コーディネーターを総合型地域スポーツクラブの「元気アップこものスポーツクラブ」事務局に配置したことで、事務局と学校との連絡調整が円滑に行われた。また、コーディネーターは事務局と教育委員会、首長部局との連絡調整も行う体制を整備することができた。

事務局内には事業費の運営や調整のため、事務処理を行う運営補助スタッフを配置し、円滑な運営体制の整備を行った。

また、右アンケート結果の様に9割の指導者が顧問との連携、協力ができたと回答。

1.顧問・副顧問との「連携・協力」は適切にできましたか（指導者）

No.1連携・協力



コーディネーターの具体的な動きの実績

菰野町、学校との連絡調整
指導者、運営スタッフの管理
アンケート・指導者研修会・保護者への説明会実施
地域移行推進協議会等への参加

今後の課題と対応方針

今年度の取組から、長期的な地域クラブ活動の実施には、今後も町の担当部局及び学校との連絡調整を行うコーディネーターの配置や地域クラブ活動を運営する事務局が必要であると考えます。当町の元気アップこものスポーツクラブは法人格を有し、事務局職員を配置しており多種目の競技にも対応できる点で、長期的に事務局の役割を果たしていくことが望まれる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

総合型地域スポーツクラブである「元気アップこものスポーツクラブ」の人材バンクをもとに専門的な指導が可能な地域クラブ活動指導者を両中学校の地域クラブ活動へ配置し、生徒が継続的に専門的な指導を受けることができる体制を整備する。また、実際の指導の状況を踏まえ、継続的な指導が可能な地域クラブ活動指導者を確保する体制を整備していく。

人材バンクの人数

56名

人材バンクの年齢構成

10代	5名
20代	9名
30代	8名
40代	14名
50代	7名
60代以上	13名

登録者属性

元気アップ教室指導者
兼務11名
外部指導員4名
町内柔道クラブ4名
兼職兼業教員9名
競技経験者27名

種目

軟式野球、ソフトボール、
サッカー、陸上、卓球、
バレーボール、バスケット
ボール、ハンドボール、
テニス、ソフトテニス、
柔道、剣道

資格有無

JSPPO公認：ソフトボール
コーチ1（1名）、バレー
ボールコーチ4（2名）、
コーチ1（1名）、テニス
コーチ1（1名）、ソフトテ
ニスコーチ1（1名）、
JBA公認：C級コーチ
（1名）
全日本柔道連盟：A級
ライセンス（1名）、C級
ライセンス（3名）
日本陸連公認：ジュニア
コーチ（3名）
JFA公認：A級コーチ
（1名）、B級コーチ（1
名）、C級コーチ（1
名）

取組の成果

地域クラブ活動指導者として元気アップこものスポーツクラブの指導者56名（1月時点）を確保することができた。地域クラブ活動指導者の質の向上のため、年間3回の指導者研修会を元気アップこものスポーツクラブ主催で開催することができた。また、地域クラブ活動指導者との意見交換会やアンケートも実施し、意見の集約を行い改善を図ることができた。地域クラブ活動指導者確保のため、地域のスポーツ団体、スポーツ少年団への情報共有、意見交換会も実施した。今年度は地元企業の地域貢献として、卓球指導者を派遣してもらい合同練習会を開催した。（図1）指導者の指導法の勉強もしてもらうことができた。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

第1回：「事故・怪我の初期対応」

～現場での怪我・トラブルの対処法と判断～

講師：スポーツクリニックTheサンズ 院長 岡田充弘 氏

肘、膝、腰、足首のメカニズムと怪我の種類

応急処置法と水分補給

第2回：「アンガーマネジメント診断」～あなたは大丈夫？～

講師：指導研修部長 伊藤 雅己 氏

怒りのメカニズム、アンガーマネジメントの意味、効果、診断

3つのテクニック、心理トレーニング

指導者研修の参加実績

・開催日： 9月21日（土）、12月21日（土）

・開催回数： 2回

・参加人数： 22人、19人

受講者の声

第1回：

・自身が腰椎分離症になって学生時代にスポーツができなくなった期間があり苦労した。メカニズムが分かり生徒への対応の仕方がよく分かった。

・改めて「RICE処置」のアイシング目的、目安時間などを勉強し、重要性を確認できた。また、早目の水分補給を実践していきたい。

第2回：

・自分の怒りのタイプが分かり参考になった。

・怒りをコントロールできるようになるとは知らなかった。

・コントロールトレーニングを実践してみたい。

今後の課題と対応方針

多感な年代の生徒と関わることに不安を感じている指導者も多く、指導者研修会を年3回は開催し、指導者の質を保証していきたい。

元気アップこものスポーツクラブでは、指導者にはJSPO等の資格取得を奨励しており、資格取得時には受講料補助の制度を設けている。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

● 取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

保護者による会費負担が今後発生することについては、両中学校の校長を通じた学校だより等で周知を図る。また、新入生説明会時や在校生に対してリーフレットで、保護者の費用負担について周知を行う。保護者向けアンケートを行い、受益者負担の許容額を調査する。

地域クラブに係る経費

■ イニシャルコストの分析

当町には受け皿となる元気アップこものスポーツクラブがあり、クラブ内には事務局が設置されている。そのため、受け皿や事務局立ち上げの費用負担はかからない。

■ ランニングコストの分析

コスト全体に占める割合：
 謝金：63%
 人件費：11%
 消耗品：8%
 保険料：4%
 交通費：4%
 事務経費：10%

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

令和7年度部活動収支案		年会費6,600円/受講料2,450円(税込)		86年度人数実績より											
		500円 個人負担													
		2,450円 補助													
		800人													
年間総金	1,185,800	1,960,000	1,960,000	1,960,000	1,283,800	1,283,800	1,283,800	1,283,800	1,283,800	1,283,800	1,283,800	1,283,800	1,283,800	1,283,800	17,336,200
【収入】 年会費															
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	3	年会費	
部員数	410	622	622	622	419	419	419	419	419	419	419	419	419	6,600 (円550)	
八旗	155	259	259	259	186	186	186	186	186	186	186	186	186	6,600 (円550)	
合計	566	881	881	881	605	605	605	605	605	605	605	605	605	5,814,600	
未加入者	484	800	800	800	524	524	524	524	524	524	524	524	524	5,352,600	
対象	2.3年生	1.2.3年生	1.2.3年生	1.2.3年生	1.2年生	1.2年生	1.2年生	1.2年生	1.2年生	1.2年生	1.2年生	1.2年生	1.2年生		
月別り年会費	286,200	440,000	440,000	440,000	286,200	286,200	286,200	286,200	286,200	286,200	286,200	286,200	286,200	3,891,800	
【収入】 受講料															(2,780円/月)
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	3	合計	
受講料	1,185,800	1,960,000	1,960,000	1,960,000	1,283,800	1,283,800	1,283,800	1,283,800	1,283,800	1,283,800	1,283,800	1,283,800	1,283,800	17,336,200	
合計														21,226,000	
【支出】 謝金															
部活動標準	2名	6,400円/回												640,000	
消耗品	500円/回	5,130,000												111,000	
その他	500円	640,000												343,000	
八旗	500円/回	2,680,000												1,634,200	
その他	500円	640,000												1,816,710	
四旗	500円/回	2,260,000												329,800	
合計		12,480,000												5,074,300	
研修会	1名	34,530円/回												19,978,398	
指導者講習会	3名	103,500												1,248,600	
合計														19,978,398	
差引残														1,248,600	

計算方法
 ※元：部活動1日1回、2名派遣、年5回開催で計算
 ※文化祭は授業後部活動のみで計算
 ※年会費 1年生は5月から入会、3年生は7月で退会、未加入76名減らして計算
 ※受講料 各月の在籍人数で計算(1年生117名、2年生127名、3年生47名)
 ※消費税込込みで計算 R7.1.14現在

部活動の参加が「自主的、自発的な加入」となったり、地域クラブ活動以外の選択をする生徒が増えたりしたこともあり、参加見込み生徒数に増減があると考えられるが、行政等の支援がない場合は、おおよそ月3,000円が必要と試算している。

図1 元気アップこものスポーツクラブ 試算による

収支バランス

練習以外に大会や遠征が重なると、支出も多くなり運営を圧迫してくる。今後は試合等の出場、練習試合の設定回数を検討していく必要がある。また、学校からの借用ができない備品、消耗品についても購入が必要となってくる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

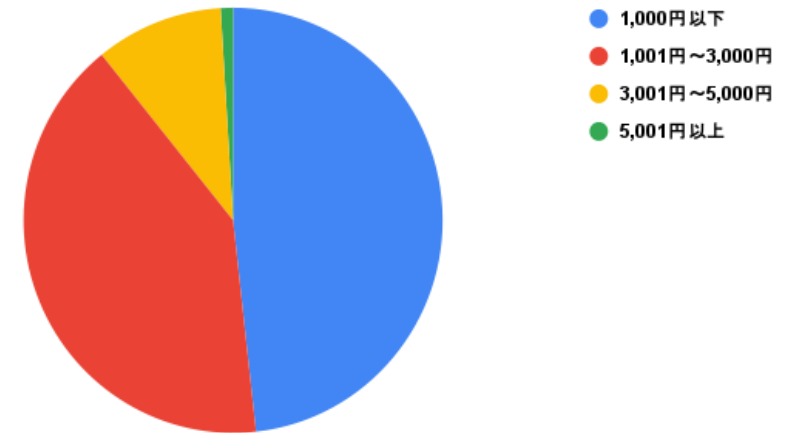
取組の成果

地域クラブ活動に係る会費の適切な設定のため、保護者アンケートを行い、ひと月当たりの許容額を調査した。以下はアンケートの内容である。

「現在、休日の部活動の地域移行への取組みは行政によって補助が出ているため無料で進められております。しかし、今後は長期的かつ継続的な運営を図るために、指導者への謝金やお子様の保険料等で、保護者の方に費用負担が生じる可能性があります。その場合の許容額（月額）はどのくらいですか。」

1,000円以下	152名	1,001円～3,000円	129名
3,001円～5,000円	31名	5,001円以上	3名

「現在、休日の地域クラブ活動は行政によって補助が出ているため無料で進められております。しかし、今後は長期的かつ継続的な運営を図るために受講料が発生します。その場合の許容額（月額）はどのくらいですか。」



今後の課題と対応方針

課題

- ・受益者負担の負担額の設定及び経済的に厳しい家庭への補助等。

対応方法

- ・地域クラブ活動数を増やし、月当たりの正確な受益者負担額を再度試算していく。⇒受益者負担額を確定させる。
- ・国等による財政支援を念頭に、域内の中学生が経済的に苦しい状況を理由に地域スポーツ活動へ参加できなくなることはないよう、予算要求を行い可能な範囲で支援を準備。
- ・設定した受益者負担額に保護者の理解が得られるよう、地域クラブ活動の質（指導者や指導内容等）の向上を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

学校施設を利用するための申請書を作成し、学校長を通じて教育委員会事務局が認めた場合、鍵の貸し出しを認めることとした。また、利用する教室や施設はあらかじめ設定した場所のみの利用とし、施設の備品や用具を使用する場合も申請書の提出を求め、適切な利用となるよう整備を進めた。

取組の成果

- ・鍵の管理を認めたことにより、教員が休日に出勤する必要がなくなった。
- ・職員室を開錠しなくても良い導線や部室及び倉庫を確保することができた。
- ・陸上、ハンドボール、ソフトボール、テニスの種目について事前に鍵を借用することができ、平日に中学校へ借用、返却をしなくてよかった。
- ・熱中症が心配される中での活動になるため、冷房の利く休憩用の教室を確保して活動することができた。

今後の課題と対応方針

・鍵の管理だけでなく施設の施錠や備品の管理など、受け皿団体や指導者と定期的の確認を行う必要がある。また、休日に部活動を行う種目もあるため、施設利用の調整が必要となる。今後はコーディネータを中心に、受け皿団体と学校との間で調整を行う場を設定していきたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

実証事業を通して地域クラブ活動を行うにあたり、事務局があることで、事業費の運用調整、参加者管理、指導者管理、施設の調整等が一括して行うことができ、円滑に進めることができることが分かった。また、コーディネーターを事務局に配置することで、各種団体や指導者、学校との連絡調整が可能となった。これらのハード面を整備することで、地域クラブ活動を安定的に行うことができている。

昨年度の実証事業では施設の鍵の管理が課題の一つであったが、本年度の実証事業に際し、菰野町部活動地域移行推進協議会で検討し、鍵の貸し出しのシステムを構築することができた。鍵の管理の課題が解決することにより、地域の指導者が一層、指導に主体的に取り組むようになり、活性化することができた。実証事業二年目ということもあり、生徒や保護者、地域にも、部活動の地域移行について一定の理解を得ることができている一方で、指導者と生徒との関係形成には課題も見られる。

●成果の評価

- ・菰野町部活動地域移行推進協議会を年間8回開催し、課題の洗い出しを進めることができた。
- ・事務局やコーディネータの配置などのハード面での整備が進み、円滑な地域クラブ活動が行えている。
- ・鍵の管理を認めたことにより、教員が休日に出勤する必要がなくなると共に、地域指導者のみでの指導に変わったことで、地域クラブ活動が活性化し、地域の行事や文化祭での指揮等も地域指導者が行うようになった。
- ・令和8年度中に休日の部活動を完全に終了させ、地域クラブ活動として活動していくという方向性を定め、生徒、保護者、地域へ周知することができた。

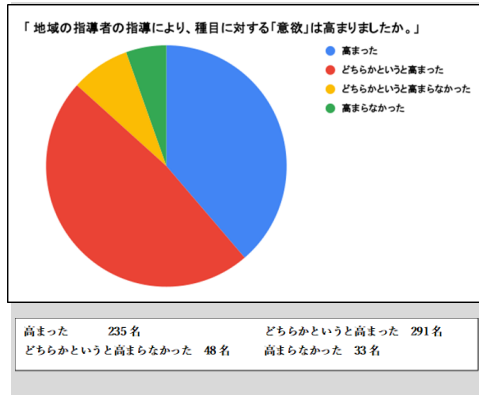
●今後に向けて

- ・アンケートの結果より、生徒はおおむね指導に対して満足している結果が得られた。一方で、指導者と生徒との関係形成や指導者の質の向上には課題が見られる。教員が橋渡し役を行い、生徒は地域指導者の指導に徐々に慣れている傾向ではあるものの、今後も学校と地域が連携して子どもたちを見ていく必要がある。また、生徒理解を深めるためにも、指導者の定期的な研修会を行っていきたい。
- ・将来的に受益者負担が生じることは保護者に伝えることができているが、実際の額を示すまでは至っていない。今後も学校の備品を借用し続ける場合、修理や追加購入が必要になった際は、だれがどのように負担していくのか調整していく必要がある。また、現在は国や町の支援に頼っているが、持続的な運営のためにも、費用面の検討を重ねる必要がある。

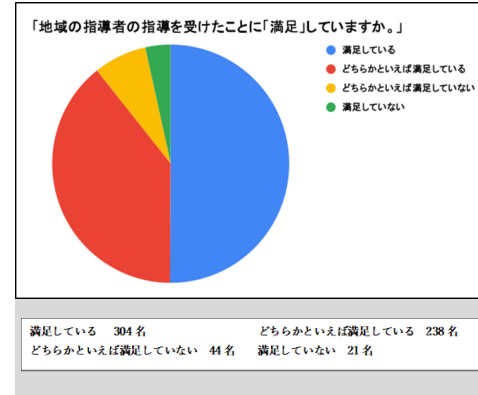
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果 地域指導者から指導を受けた生徒のアンケート結果（有効回答数607）

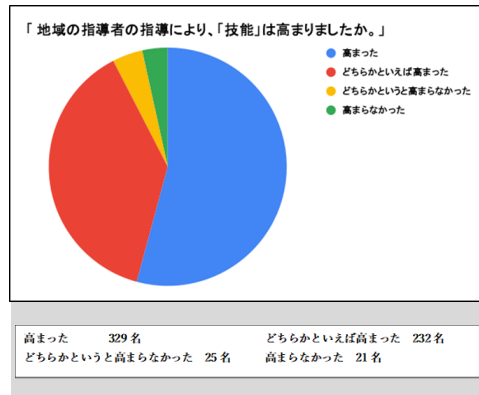
Q.地域の指導者の指導により、種目に対する「意欲」は高まりましたか？



Q.地域の指導者の指導を受けたことに「満足」していますか？



Q.地域の指導者の指導により、「技能」は高まりましたか？



種目に対する「意欲」の高まり
肯定的な意見（高まった、どちらかというが高まった）が全体の約87%で、地域指導者が指導に入ることによって生徒の種目に対する意欲が高まる傾向があることが分かった。
「技能」の高まり
肯定的な意見（高まった、どちらかというが高まった）が全体の約93%で、地域指導者が指導に入ることによって、専門的な指導を受けることができ、技能が高まると感じる生徒がほとんどであることが分かった。
「満足」しているか
肯定的な意見（満足、どちらかという満足）が全体の約90%で地域指導者が指導に入ることによって多くの生徒が満足している状況が分かった。

●参加者の声

中学生の声①（アンケートより） 成果面

- ・専門的なことを学べるし、技術や意欲が高まる。
- ・指導者が増えていっぱい教えてもらえるようになった。
- ・ちゃんと生徒一人一人のことをわかってくれていて適切なトレーニングをさせてくれる指導者です。教えてくれることは大体理由も言ってくれるのでわかりやすいです。
- ・わかりやすいし、こうするんだよとお手本を見せられる。間違えたことがあると、自分で考えさせてくれる。じっくり考える時間をくれる。
- ・今までは顧問の先生が経験者じゃなかったんで、とてもありがたかったです。今も選手の采配とかしてくれるのでありがたいです。
- ・小学生のときのチームの監督が今も指導してくれているのでとても嬉しい。

中学生の声②（アンケートより） 課題面

- ・顧問の先生が言っていることと地域の指導者の人がたまに違うからわかんなくなる。
- ・もっとわかりやすく教えてほしい。
- ・厳しい、怖い。
- ・話が長くて、言ってることが古い気がする。
- ・学校の先生ではないので相談ができないところは嫌だ。
- ・怒られていて何をすればいいのかわからなくなる。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

【生徒への啓発チラシ】 出典:休日の中学校部活動は地域クラブ活動へ
～2026年(令和8年)の完全移行を目指して～



益野町教育委員会

「中学校部活動」から「地域クラブ活動」へ

○中学校部活動を取り巻く状況

子どもたちの健やかな成長に大きな役割を果たしてきた中学校部活動(以下、部活動)ですが、現在、益野町でも少子化に伴い部員数が減少し、やむを得ない理由や学校で試合に出られない状況が見られます。今後、子どもたちの活動の選択肢は、さらに少なくなることが懸念されます。

また、学校の制約は異動等により継続して指導ができなかったり、指導の方針が変わったり、顧問によっては専門的な指導ができなかったりすることが課題とされてきました。

さらに、全国的に教員不足が深刻化しており、学校単位では部活動を継続していくことが難しい状況がみられます。

○元氣アップこものスポーツクラブが行う「地域クラブ活動」へ

これらの課題の解消のため、益野町では元氣アップこものスポーツクラブが行う「地域クラブ活動」を整え、子どもたちが今後も継続してスポーツ、文化活動に楽しむことができる場所づくりを進めています。

この一環として、中学校が行う休日の部活動を2024年度(令和6年度)に全て終了させ、引き続き活動を希望する生徒が、「地域クラブ活動」を選択できるように整備を行います。

また、平日の部活動は令和7年度の休日の部活動の完全移行の状況や個の方針等も鑑みながら、引き続き、段階的に地域移行を進めていく予定です。

部活動と地域クラブ活動(元氣アップこものスポーツクラブ)の違い

	部活動	地域クラブ活動
運営主体	中学校	特定非営利活動法人 元氣アップこものスポーツクラブ
指導者	教員、部活動指導員	地域の指導者、希望する教員(兼務指導)
参加者	高校校の生徒	生徒等(参加費等は原則に設定)
活動場所	学校施設	学校施設、地域の体育館等
費用	授業、試合やコンクールの参加費等	指導者への謝金等の対応費、試合やコンクールの参加費等
保険	日本スポーツ振興センター労災保険	元氣アップこものスポーツクラブ独自の保険

今後のスケジュール(イメージ図)



「地域クラブ活動」への整備期間における対応



2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【卓球】



【バレーボール】

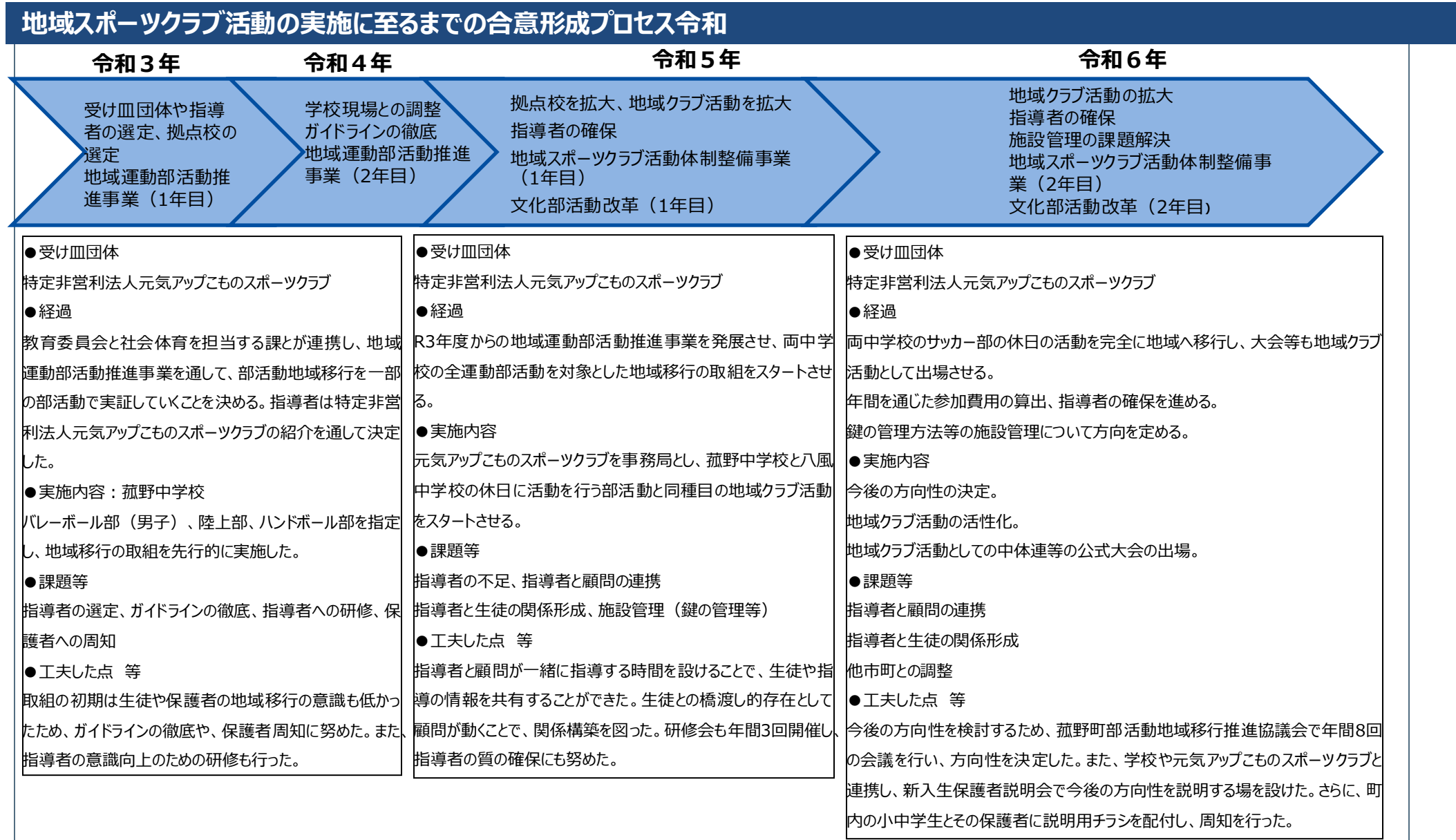


【ハンドボール】



【指導者研修会】

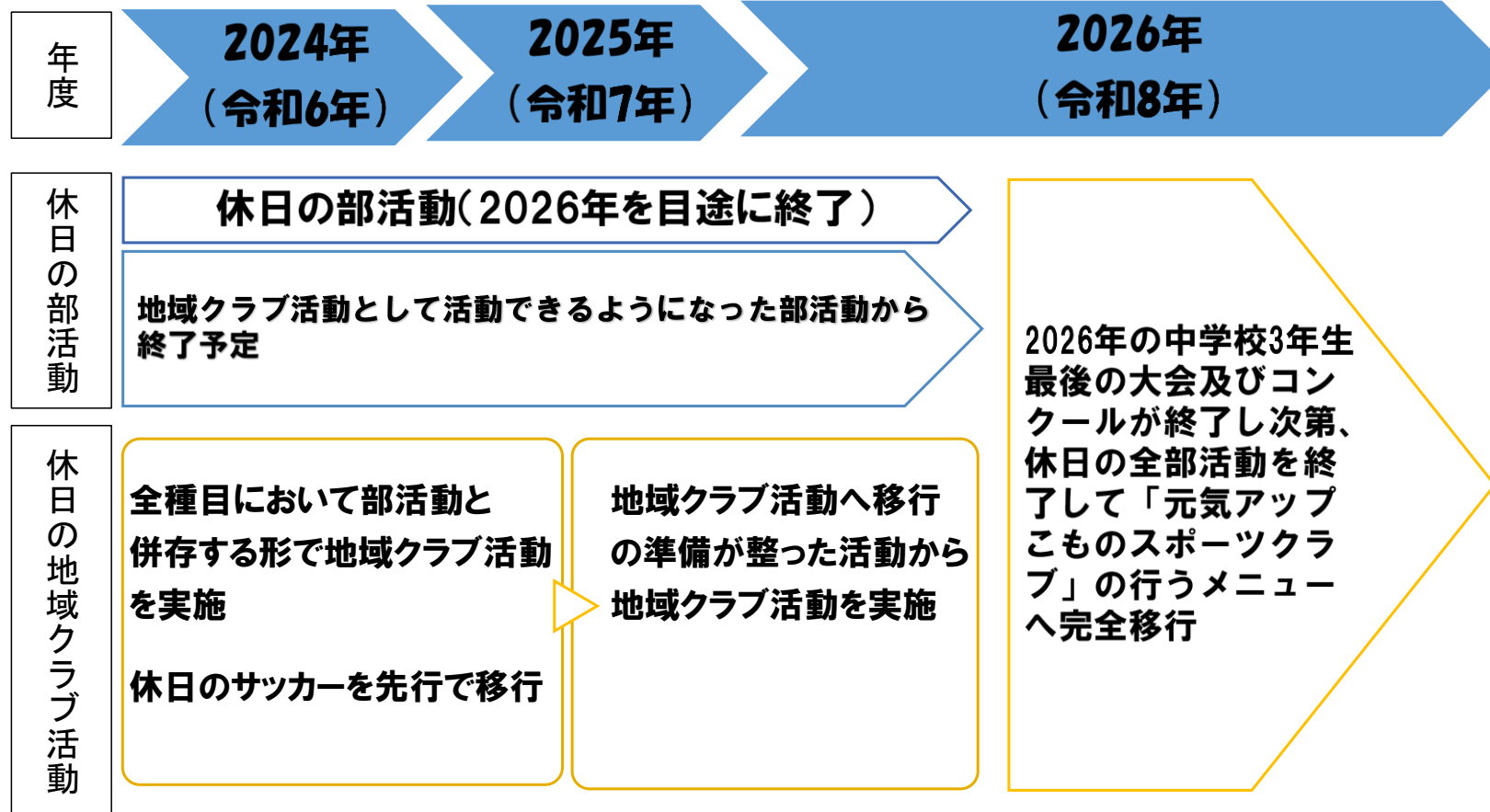
2.実証内容と成果



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

今後のスケジュール



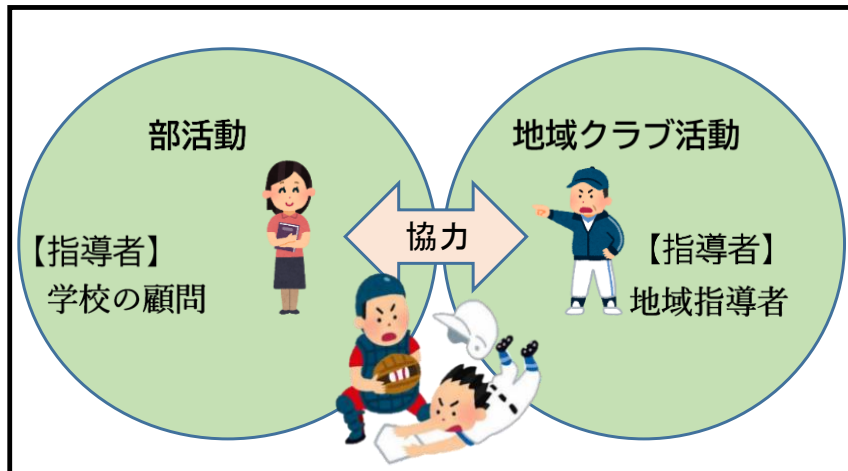
地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

今後のスケジュール（イメージ図）

現在

休日の活動

R8年度



2026年度（令和8年度）に完全移行

段階的に部活動を終了し、地域クラブ活動を充実させていきます。

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

三重県 大台町

自治体名：三重県大台町

担当課名：生涯学習課

電話番号：0598-82-3791

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	362.9 km ²
人口	8,172 人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	181 人
部活動数	9 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	大台町部活動地域移行推進協議会
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向け準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

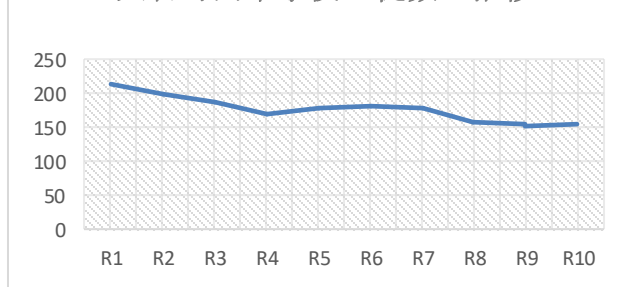
大台町内には2つの中学校があり、それぞれ149名、32名の生徒数である。年々生徒数が減少傾向である中学校で部活動を存続していくのは困難であり、廃止となる部活動も少なくない。大台町部活動地域移行推進協議会を設置し、現在、実施している実証事業を行い、課題、問題点を洗い出しながら、他の種目の地域移行についても検討していく必要がある。

部活動では、専門以外の種目を担当することもあるが、地域移行することにより、質の高い専門的な指導を受けることができる。さらに、質の向上、危機管理、ハラスメントへの対応のため、競

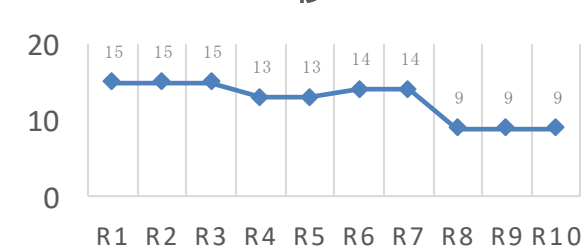
技団体等が主催する研修会への積極的な参加を推進する必要がある。

部活動と比較すると、地域移行の取組の方が保護者の費用負担が増える。そのため、町として、財政面での支援が必要である。

大台町内中学校生徒数の推移



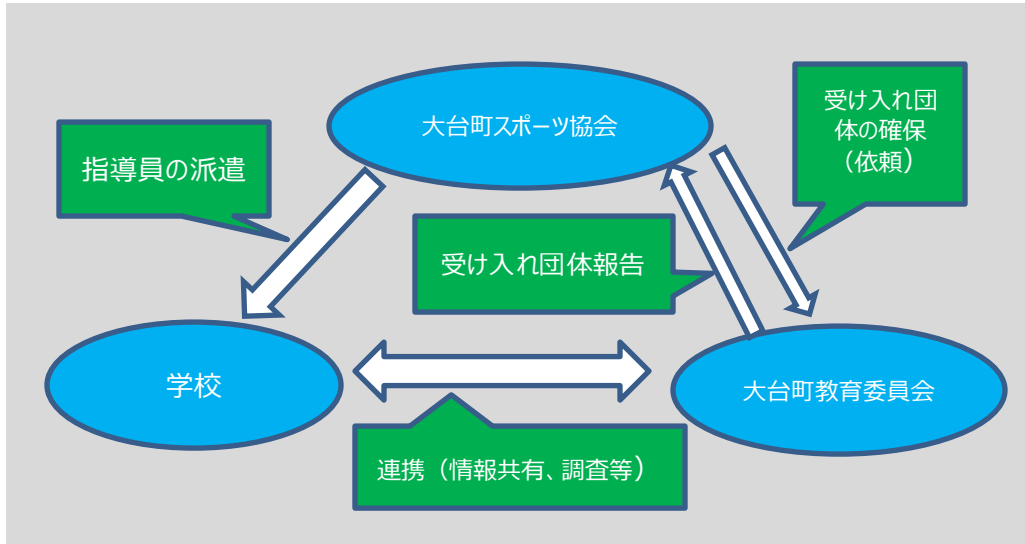
中学校における部活動数の推移



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会 子ども教育課

- ・中学校、中学校部活動との調整
- ・保護者、教員へのアンケートの実施
- ・大台町部活動地域移行推進協議会の開催

◎教育委員会 生涯学習課

- ・各種スポーツ団体との調整
- ・指導者の確保
- ・財源の確保

年間の事業スケジュール

令和6年5月	地域スポーツクラブ開始
令和6年6月	教員への聞き取り調査
令和6年8月	地域指導者への聞き取り調査
令和6年10月	地域指導者への聞き取り調査
令和6年11月	第1回推進協議会開催
令和6年12月	スポーツ少年団へ意見聴取
令和7年1月	スポーツ協会へ意見聴取
令和7年2月	事業完了報告書の作成
令和7年2月	成果報告書の作成

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（1部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	1人	全体の運営スタッフ数	1人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
ソフトテニスクラブ	大台町ソフトテニス協会	ソフトテニス	月6回程度	午前中	1年生7名 2年生2名 3年生3名	5月～2月	大台中学校テニスコート	1人	1人	年会費 1,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

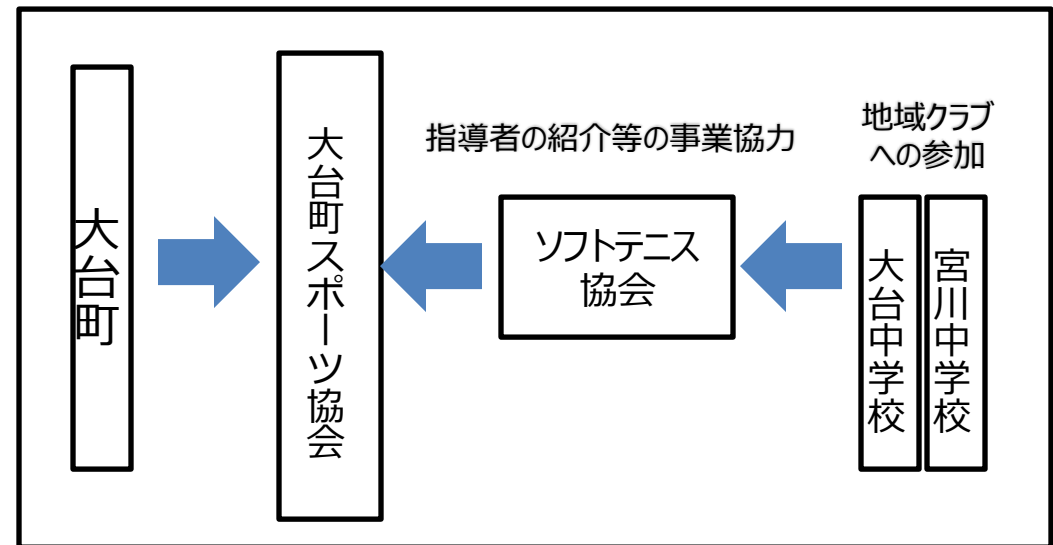
2.実証内容と成果

主な取組例

●ソフトテニスクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトテニス
運営団体名	大台町ソフトテニス協会
期間と日数	5月～2月（6回/月程度）
指導者の主な属性	スクールサポートスタッフ
活動場所	大台中学校テニスコート
主な移動手段	保護者の送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	年額1,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

指導員と学校顧問等と連携を密にとり、部活動を安全かつ計画的に実施できるよう発生した課題の把握・対応をし、持続可能な体制整備づくりを行う。

大台町部活動地域移行推進協議会を設置し、町スポーツ協会、町スポーツ少年団、スポーツ推進員、他市町関係団体との連絡調整、指導助言を行う。

取組の成果

大台町教育委員会、大台中学校、部活動指導員が密に連携をとり、常日頃から取組内容について情報共有を図った。

指導員が平日は大台中学校のスクール・サポート・スタッフとして勤務していることもあり、関係者との連絡調整体制が整っている。

今後の課題と対応方針

地域移行する際の指導者不足を解消するため、大台町部活動地域移行推進協議会で検討した事項について、スポーツ協会やスポーツ少年団等と協議を重ね、人材の確保を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者等の資格の取得を推進する。

町スポーツ協会等との連携を強化し、人材の確保に努める。

取組の成果

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者の資格取得のための働きかけを行った。また、三重県スポーツ協会等が主催する研修会等の情報提供を行ったが、参加には至らなかった。

町内で指導者を増やすことにより、大台町スポーツ協会主催の研修会を実施するなどの工夫をし、より質の高い指導ができるように研修に参加しやすい環境を作っていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

町スポーツ協会、町スポーツ少年団、スポーツ推進員及び行政で組織する大台町部活動地域推進協議会を設置し、連携の強化を図った。

また、個々の会議に出席し、今後の指導者の確保や取り組みについて協議を行った。

取組の成果

大台町スポーツ協会には、町スポーツ少年団、スポーツ推進員も所属しており、これまで同様に連携強化を図った。部活動地域移行については、スポーツ少年団で育成した選手が中学校に進学したらどうなっていくか不安の声もあり、関係団体への情報提供も含め、地域移行へのイメージを持ってもらえる取組が必要と感じた。

今後の課題と対応方針

部活動推進協議会を設置したことにより、学校、各種団体、行政との連携がスムーズに行えるようになったため、更に連携を強化し、指導者の確保や、様々な課題について協議していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

生徒の減少により、団体競技ではチームが成立しないことも想定される。地域移行することにより、学校の枠を超えた活動ができ、生徒も確保しやすくなる。

取組の成果

大台町ソフトテニス協会には、大台中学校だけでなく、同じ町内にある宮川中学校の生徒も参加しており、町内全域の取組として実施することができた。地域移行していないスポーツについては、スポーツ少年団の活動を通じて、町内のみの活動ではなく、広域的な活動となっている。

今後の課題と対応方針

生徒の減少により、次年度に4つの部活動が廃止となる。廃止後、地域移行をした場合でも団体競技ではチームを存続するのは困難であり、広域的な取組を進める場を作る必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

生徒の志向や体力等の状況に適したスポーツに親しむ機会の確保を行うため、なるべく多くの種目が地域移行できるよう検討していく。

取組の成果

現在は、ソフトテニスだけの地域移行ではあるが、他のスポーツ競技からも地域移行への相談があった。大台中学校では、部活動の廃止が決定している競技もあり、保護者等と協議を行った。さらに、保護者や関係者の不安をなくすためにも、どういう活動になっていくかの方針を決め、スポーツに親しむ機会の確保に努めていく必要性を感じた。

今後の課題と対応方針

部活動にない種目についても、指導者から地域部活動、地域クラブとして活動をしたいという要望もでているため、今後新しい種目については検討していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

保護者への負担が大きくなるため、大台町部活動地域移行推進協議会内で補助金等の財源を検討していく。

取組の成果

大台中学校の部活動が行われる時は、スクールバスを活用し、地域部活動に参加することができ、保護者の負担軽減を図った。

現在は、ソフトテニスのみ地域移行であるが、競技により、費用の負担が変わってくるので、検討の必要性を感じた。部活動と比較すると参加者の費用負担が増えることも想定されることから、自治体としての支援方法の示していく必要性を感じた。

今後の課題と対応方針

活動に対して費用負担軽減は行っていない。地域移行がスムーズに進むために、スポーツ協会から地域クラブ団体への補助金の創設など自治体が支援できる体制を検討する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

学校の施設・設備・備品等を使用する。また、町体育施設を使用する際は、減免とし、財政面での負担軽減を図る。

取組の成果

大台中学校テニスコートを活用し、地域部活動を実施することができた。また、雨天時には、学校体育館や町内体育施設を利用した。町内体育施設の使用にあたっては、使用料を減免し、財政面の負担軽減を図った。

今後の課題と対応方針

学校施設の利用については、大きな課題もなく、引き続き、活動がスムーズにできるよう連携を密にしていく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

実証事業として、大台中学校のソフトテニスの部活動に対して土日祝の活動の地域クラブ活動への移行を行った。

月4～6回程度、練習指導や大会引率を地域指導員が行うことにより、教員の負担の減少を図った。

●成果の評価

土日祝日の活動に対して、地域指導員が指導、引率を行うことにより、教員の負担軽減につながった。

また、地域クラブとして活動することにより、中学校の枠を越えた交流を図ることが出来た。

●今後に向けて

ソフトテニス以外の競技に関して、指導者の確保や活動内容、課題の洗い出しなどを行っていき、全部活動の地域移行に向けて大台町部活動地域移行動推進協議会を中心に取り組んでいく。後には、町スポーツ協会を活動主体とし、補助を行っていきながら地域へ段階的に移行していく。

部活動顧問の教員への聞き取り調査

●教員からの声

- ・特に大会へ参加の際は、大会役員等で忙しいため地域指導者が生徒の引率を引き受けていただけるとありがたい。
- ・教諭としては、放課後の時間は部活動顧問ではなく、翌日の授業準備などに充てることが望ましい。
- ・ほとんどの生徒が社会体育にも参加していることもあり、移行に関してはスムーズに行える部活動が多いのではないかと。
- ・2校の中学校間の距離が少し遠いため、合同練習の環境を整えるのが困難。
- ・社会体育への参加は、送迎に関して保護者への負担が大きい。
- ・担当顧問に経験や知識が無いため、知識が豊富な専門の指導者に指導してもらった方が生徒にとっては良いのではないかと。
- ・やる気のある生徒は地域クラブ、楽しみたいという生徒は部活動というすみわけもありではないかと。

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



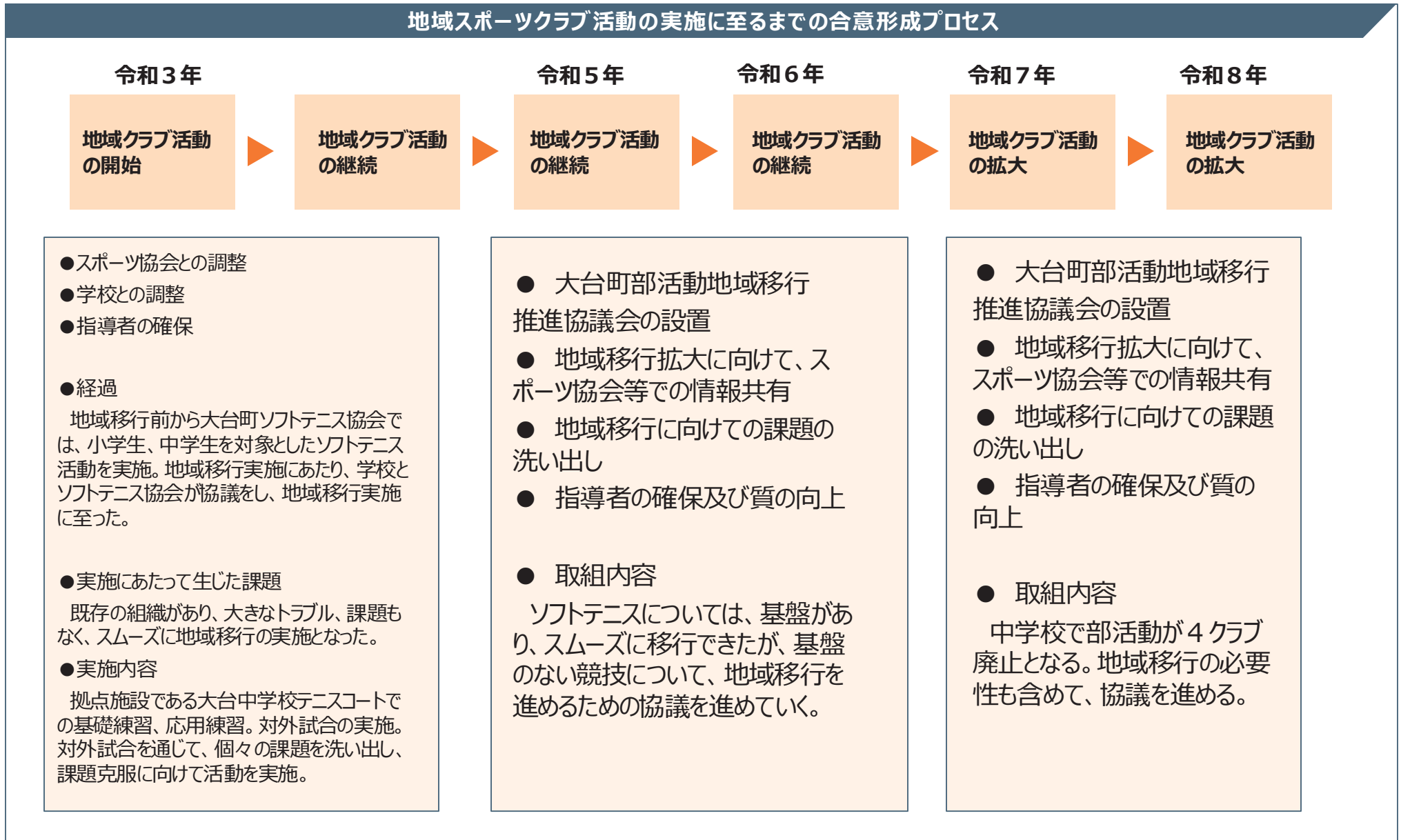
【指導している様子】



【大会引率】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

大台町教育委員会 部活動改革スケジュール（案）

